



ひめじ市民法律事務所

市民法律だより

明けましておめでとうございます

今年は 谷川俊太郎詩集 続 (2002年1月 思潮社) から。

* 濁き 水に濁らしてはなごの 思想に濁らしてはなごの 思想に濁らしてはなごの 愛に濁らしてはなごの 愛に濁らしてはなごの 神に濁らしてはなごの 神に濁らしてはなごの 何に濁らしてはなごの 何に濁らしてはなごの へ水ヲ下サイ 水ヲ…… あの日から水に濁らしてはなごの です
--

今年の平和賞を日本被団協に授与するにあたり、ノーベル委員会は、「ノーベルのビジョンの核心は、献身的な個人が変化をもたらすことができるという信念だった。肉体的な苦しみやつらい記憶にもかかわらず、その犠牲となった経験を平和への希望と取り組みに生かすことを選んだすべての被爆者に敬意を表したい。」と述べました。

昨年は選挙イヤーでした。そして、東京都知事選、衆院選、米大統領選、兵庫県知事選それぞれ、分析を要する有権者の判断がありました。ただ、いろんなことがあっても、耐えがたいつらい経験を、一個人として、身をもって、他の人が同じ目に遭わないようにするための希望と取り組みに生かすことを選んだ人の行動が、社会に、大事な変化をもたらすのだと思います。

弁護士の仕事、事務所員の仕事は、実際の人に起こった、確かな手触りのする、そのことに、触れて感じつつ、法の光を当て、寄り添いつつ、歩いていく仕事。そのことを通じて、デジタルの空間でつながる新しい居場所にも、地に足の着いた、確かな正義と確かな温かみのある暮らしがもたらされるよう、努力を続けたいと思います。

新しい年が、皆様にとって素晴らしい年となるよう祈念して、ご挨拶と致します。

2025年(令和7年)1月
所員一同

発行責任者

〒670-0952 姫路市南条10-4

ひめじ市民法律事務所

弁護士 平田 元秀

電話 079-282-0430

FAX 079-282-0433

<https://himejishimin.com/>

事務所営業時間

月～金 午前9時30分

～午後6時

土曜日 午前中 予約相談あり

コンテンツ

新年のご挨拶	1
弁護士の小話	2
つれづれなるままに	3
事務所旅行	3
源氏物語を巡る	4
編集後記	4

民主主義の足下と「集合体としての国民」と石破さん

平田元秀

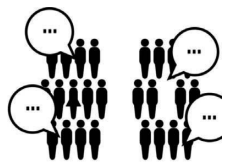
当番が回ってきて、今、地元自治会の副会長をしています。会議資料を作ったり、回覧物を作って回したりしながら、民主主義の足下をみつめています。

ψ ψ ψ

10月27日の衆院選では、戦後3番目に低い投票率なのに与党自民・公明が過半数割れを起こし、自公国連立のないまま（少数与党のまま）政権が続く、という稀な事態が発生しました。就任8日後に解散権を行使した石破首相は、これを「政治資金問題などをめぐり、国民の政治不信を招いた事態」と総括しました。そうなのでしょ

うでしょうか。裏金問題、政治と金、権力私物化の問題でいえば、今回のパーティー収益不記載問題よりも前に、「森友加計」の問題がありました。森友学園問題では、安倍首相と史観を共有し、夫妻同士が親しい関係にあった籠池理事長の学園に、大阪の国有地が、破格の値段で販売されました。しかも、責任追及の最中に、土地取引に関する公文書が財務局により改ざんされました。加計学園問題では、獣医学部の新設にあたり、文科省が「総理のご意向」の下、首相と旧知の仲にあった加計学園1校を選定・認可しました。しかし、「森友加計」後の衆院選で、与党は圧勝しました（2017年）。「桜を見る会」事件では、安倍後援会の前夜祭収入不記載が発覚しましたが、その後の参院選でも与党は勝利しました（2019年）。

だから、「マスの集合体としての国民」の判断については、もう少し別の見方をした方がいいのではないかと思います。



11月5日の米大統領選挙では、大富豪で最高に自分ファーストのトランプが、階級社会の現状に不満を持つ人々の喝采を受けて政権に返り咲きました。同月17日の兵庫県知事選挙では、パワハラ疑惑の下、県議会の全会一致の不信任を受け失職した元知事が、SNSを見て元知事の演説を見に来た群衆の激励を受けて再選したりしました。そこには「価値の転倒」が起きています。考えてみると、小泉純一郎氏

は、今日では極端な新自由主義を推進したと総括される政治を進めましたが、政権には力がありました。安倍晋三氏も権力私物化を批判されましたが、政権には力がありました。

これらに共通する点を考えると、そこには、①「強烈なリーダーシップ」、②「無名の国民に直接届く言葉や方法の徹底した選択」、③「ぶれない信念のある感じ」、④「無名の弱者が抱く憤りや憎悪や嫉妬や不安などの感情に訴えて、強者に立ち向かっていくようなイメージ」があると思われます。小泉さん、安倍さん、トランプさん、斎藤さんにはいくつ該当するでしょう。岸田さん、石破さん、ハリスさんは違うタイプです。

ψ ψ ψ

大衆の「ルサンチマン」に訴え、潜在的強者を敵と見立てて煽り、自陣の訴求力を創り出し、自陣の政敵を打ち倒す動き方があります。毛沢東の文化大革命もそうでした。こうしたある意味「伝統的」な手法は、日本のような年寄り国家においても、格差や貧困の拡大等の社会の深部でのマグマ上昇があるときであって、今のように、家族も会社も労働組合も政党も地域も学校も祭りも宗教もあまり強くない、個人がバラバラにスマホを見ている時代にあっては、むしろ勢いを取り戻すのだと思います。

ψ ψ ψ

民主主義の足下を見つめています。

石破さんは、いつ内閣不信任案が可決されてもおかしくない少数与党の政権、全て議論を公開して合意を形成しなければならない政治を切り盛りします。だったら、与野党、政策毎に合議をつくして、企業献金の禁止、夫婦別姓制度の導入、臨時国会の召集期限を定める国会法の改正等の、いままでできなかった良心的な立法を通したいものです。また、バラバラ化した国民の心と財産を奪われないよう、国民のサイバー領域にシビリアンコントロールを及ぼし、そこに「いわば自治会や市や国のような」民主的な公共機関を構築する大きな施策を通したいものです。

(2024年11月30日記)

「おすすめの海外ドラマ」

弁護士 大川 亜 希



今年、かなり長い時間をかけて（シーズン6まであるので）、観た海外ドラマがあります。「THIS IS US/ ディス・イズ・アス」です。Amazonプライムビデオ等で観ることができます。

物語は、ケイト、ケヴィン、ランダルというピアソン家の三つ子が36歳を迎えるところから始まります。三つ子の人生を中心に、彼らの周囲の人々の関わりを過去、現在、未来の複数のタイムラインを交えて描くヒューマンドラマです。ピアソン家の歴史を何十年にもわたって綴り、人生のほんの小さな出来事がいかにその後の人格形成に影響を与えるのかということをテーマの一つとしています。

三つ子には、それぞれが生きていく上で抱える困難さや問題があり、その問題がそれまでの人生でどう生じてきたのか、これからどうするのかを考えていくこととなります。これは、どんな人にも共通のテーマなので、このドラマを観る中

で自分はどうかと振り返り、成長することができるドラマだと思います。

今持っている性格や、こだわり、価値観は、生まれて育っていく中でどこかで身につけたものであり、必ず何かきっかけがあるはずですが、普段は意識していません。この今持っている価値観等は、時には、生きづらくし、「のろい」となっていることがあります。何がきっかけでこのような価値観等を身につけるに至ったのかを知ることができれば、それを今後変えることも可能です。特に小さなきっかけが大きな影響を与えていることがあるので、今はその価値観等は持っていないと良いと心から納得できれば、どう感じるかを変えることができるはず。なので、人生を振り返って自分がどのような経験をしてきたのかを知ることがとても大切なことなのです。そういったことを考えながら、時には笑い、時には涙するドラマです。ぜひ1人でじっくりと、もしくはご家族と一緒に観て、感想を話し合ってみてはいかがでしょうか。

事務所旅行

今回の事務所旅行では、新しくなった神戸須磨シーワールドに行ってきました。

スマシーは、少し前まで須磨水族園だったわけですが、スマスイは、私にとってはなじみ深い水族園です。小学生の頃、のびのびパスポートで家族や友達と何度も遊びに行ったことを憶えています。波の大水槽、行く度にあの中に入ったらどうなるんだろうとなんとなく怖かったことを思い出しました。スマスイで特に好きだったのは、イルカショー、ノコギリザメの剥製、大きい主みたいな魚のいる水槽でした。ちなみに、スマスイでお弁当を食べると鳩の大群がやってくるのでそれはいやでした。

スマシーはとても綺麗になっていて、コンパクトな波の大水槽のような外洋水槽では様々な種類の魚の餌やりを見ることができ、大きなサメが悠々と泳ぐ姿には見惚れてしまいました。

ドルフィンショーでは、みんなイルカの可愛さにくぎづけでした。イルカってなんであんなに可愛いのでしょうか。

お昼は、シーワールドホテルのピュッフェに行きま

した。取り過ぎてしまったり、ご飯だけでお腹がいっぱいになってスイーツを食べられなかったりとトラブル（笑）もありつつ、普段の料理についてお話したり（料理テクを色々と教わりました）。

オルカショーも観に行きました。迫力あるショーで、隣に座っている平田弁護士から「おお～！！」という声が聞こえてきました。シャチは本当にツヤツヤで丸っぽいからか、とても可愛かったです。頭を撫でてみたいです。

その後はペンギンの可愛さを堪能したり、水槽をじっくり見て回ったりしました。事務所旅行で来たことで、それぞれどんな生き物が好きなのかなど意外な面も知れたので良かったです。たくさんお話しできました。大人だけで水族館に行ってみるのも楽しいですね。

楽しい事務所旅行でした！

（大川）



源氏物語を巡る

昨年、「どうする家康」で、初めて大河ドラマ完走（完走という言葉が相応しい）を経験した私。

今年大河ドラマ「光る君へ」は、『源氏物語』がテーマになっています。子供の頃、源氏物語を漫画化した『あさきゆめみし』を読み、子供ながらに、光源氏の美しさと官能的な描写にドキドキしたのを思い出しました。



面白くて、一気に読んだ作品です（漫画です）。

さて、このドラマの主人公は、紫式部。平安時代に、千年の時を超えるベストセラー『源氏物語』を書き上げた女性。

そこで、源氏物語のことをもっと知りたくなり、紫式部が源氏物語を書いたと



される石山寺（滋賀県大津市）を訪れました。



平安時代、貴族の間でも、「石山詣」が盛んに行われていたと言われています。全54帖からなる超大作の

源氏物語ですが、紫式部は、この寺で12帖「須磨」（すま）、13帖「明石」（あかし）の巻から書きはじめたという説もあり、これらの帖以外にも、たびたび石山寺が登場するのです。

石山寺は、「花の寺」としても有名で、苔の緑が美しく、何度でも訪れたいお寺でした。

そして、宇治へ。「源氏物語」54帖のうち最後の10帖の舞台が宇治なのです。そのことから特別に「宇治十帖」と呼ばれています。

宇治のまちには、物語にゆかりのあるスポットがたくさんあり、紫式部像が立つ「夢浮橋（ゆめのうきはし）の古跡」や、源氏物語をテーマにした公立博物館「源氏物語ミュージアム」など、源氏物語の世界を体感することができます。



646（大化2）年に最初の橋が架けられたと伝えられている宇治川。

悠久の時を流れる宇治川に思いをはせて、散策してみるのもいいですね。

さて、ドラマは第42回へ。外孫を天皇にした道長は摂関政治の栄華を極め、源氏物語も宇治十帖の執筆に入ります。二度目の大河も完走目前です。

(M)

編集後記

明けましておめでとうございます。

この原稿を書いているのは、11月末ですが、まだ暖かい日が多く、本格的な冬の訪れを知りません。昨年夏は、「観測史上、最も暑い夏」を更新し、地球温暖化が進んでいると言われてます。日本の四季の美しさを次の世代に残せるよう自分のできることをしていきたいです。四季折々の自然を感じられる穏やかな一年になりますように。本年もよろしくお願いいたします。

(M)